



豊かな子

明るく、思いやりのある子
夢に向かって、自ら学ぶ子
身体を鍛え、最後までやりぬく子



一步一步、確実に体験・学びを進める

2月に入りました。季節は、節分から立春へと進んでいます。令和7年度の諫小の学びを、確実に実施し、卒業、修了の日をむかえたいと思います。



3年生のクラブ見学が行われました。3年生は、4年生になるとクラブ活動に参加します。年間5、6回と回数は多くはないのですが、自分の興味関心に合わせて、異年齢集団で活動することには、社会性や共生力の育成に大きな価値が込められています。「さあ、どのクラブにはいろうかな？」

1年生が、凧を作って、遊んでいましたよ。お手製の凧に、思い思いに絵をかくて、北風に乘せて、空高く舞い上がらせていました。冬の遊びの定番の凧あげは、昔も今も変わらず、楽しさいっぱいなのでしょう。1年生は、次にコマ回しに挑戦するようです。「難しいよ、コマ回しは」



今年度最後の図書ボランティア**ピーターパンによる朝の読み聞かせ**でした。1年間、素敵な本を子どもたちに出会わせていただき、大変ありがとうございました。目を輝かせ、身を乗り出して、読み語りに聞き入る姿が、印象に残ります。

地震を想定した避難訓練を実施しました。地震大国日本では、毎日10件ほどの地震が発生しています。いつどこで起きてもおかしくない地震に対して、自分の命の守り方について、みんなで学びました。大地震発生の行動については、ご家庭でも話し合っておくことが大切です。



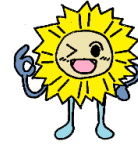
全国学校給食月間に合わせて、郷土料理の提供や**食育の指導**を行いました。

給食をはじめ私たちの食生活を支えて下さっている方々へ感謝の気持ちを持つとともに、食に対する関心を高め、望ましい食について考えていくこともねらいました。また、給食当番を分担して受け持

つことで共生の心や行動も育んでいます。

一つ一つの学びや体験・活動を大切に指導し、子どもたちの生きる力へとつなげていきます。

人を大切に思うこと



数年前に、小学生の女の子が次のような発表をしました。

行きつけの床屋さんが、お母さんや弟と一緒に髪を切りに行くと、いつもお菓子をくれるとのことでした。ある日、床屋さんが忙しかったのかそのお菓子をもらえなかったので、「おばちゃん、今日はお菓子ないの。」と聞いたら、「お母さんから『あなた、何を言っているの！』と厳しく叱られた。」という話でした。自宅で家族との会話の中であれば、同じことを言ってもだれにも叱らないのに、なぜここでは叱られるのか。その時、この発表をした児童は、会話は、相手や場所を考えてしなければならないことを学んだということでした。

人は、多くの人たちと共同生活をしていくものですし、その関係を大切にしていかなければなりません。そのために自分の思いを伝え、他人の思いを知ろうと努めることが必要です。このお母さんが子どもを叱った言葉には、そのような意思がなかったとしても、人と人とのあり方を、しっかり子どもに伝えようとする親としての力を感じました。また、こうして親から子へと伝達される教えが継続していくのだとも思いました。他人が何を想い、何を考えているのかを知ることは、それほど困難なことではないという思いもありますが、しかしながら、他の人の想いや考えを知り尽くすことはできないものです。だから、人の話に謙虚に耳を傾け、少しでも相手の想いや考えを知ろうとすることが大切なことなのです。

また、子どもは、教えられなければ知らないのはあたりまえのことです。子どもは、家庭で、学校で、地域で大人から色々なことを場所や時間を問わずに学んでいるのです。その中から、大切なことはいつまでも忘れずに成長していくのだらうと思います。このような心に響く学びをどのように積み重ねさせていくのか、私ども大人に与えられた課題も大きなものであります。

(元長崎県教育委員 鶴崎耕一)

鶴崎委員のメッセージを読み、子育てにおける大人の役割を改めて認識することができました。

親は、子どもと友達ではありません

あくまでも、親は親で、子どもを立派な人間に育てあげる責任者です。

間違いは間違いと教え、こうあるべきだと実際にやってみせる人間の教科書でなければなりません。

善悪の判断は、特に重要です。

今、悪を教えておかないと、子どもの将来が思いやられます。

また、目に見える行動、習慣だけでなく、

目には見えない、人の心について、人と人とのつながりについて、

親子の深い絆の中で、しっかり、教え育んでほしいものです。



学校では、自分のことはさておいて、人のことを悪く言う子がたまに見られます。人を悪く思うことで、自分が同じようなことを言ったとしても、自分のことを正当化する、「だって、〇〇くんが…」の言葉がその例です。指導の場面では、もめごとの状況を確認したうえで、それぞれの立場や気持ちを語り合わせ、今後どうあるべきか、これからの振る舞い、態度を互いに考えさせます。それが、子ども達の未来につながる指導だと考えているからです。どちらが悪かったで終わっては、決して互いの未来、人間形成や社会性の育成にはつながりません。

日本伝承の諺『他人のふり見て、我がふり直せ』、自分の思いを伝え、他人の思いを知ろうと努めることを、強く意識して指導していきたいと考えます。